

**「オブティス・サステナブル」「JAHBnet・リノベーションデザインプロジェクト」
2作品が2008年度グッドデザイン賞を受賞**

株式会社アキュラホーム(本社:東京都新宿区、社長:宮沢俊哉)は、「オブティス・サステナブル」と、「JAHBnet・リノベーションデザインプロジェクト」で財団法人日本産業デザイン振興会主催の「2008年度グッドデザイン賞」(Gマーク)を受賞しました。アキュラホームは、2005年に「匠階段」、2006年に「ガラスウォール(耐力壁)」でグッドデザイン賞を受賞しました。今回の受賞はこれまでの“モノ”のデザインではなく、「オブティス・サステナブル」は新築住宅における価値持続の仕組みと、暮らし方をサポートする様々なサービスメニューの構築、「JAHBnet・リノベーションデザインプロジェクト」は地域工務店と住まい手、職人との新たな連携によって既存住宅の価値を再創造するというリノベーションの仕組みをデザインしました。



オブティス・サステナブル(身体・生活領域/戸建て住宅、集合住宅)

「オブティス・サステナブル」は住宅価値持続の仕組みと暮らし方サポートメニューを有した住宅です。住宅の価値持続性においては、住宅の履歴書による記録の保存、修繕費用に充てる保険サービス、サーモグラフィーを用いた非破壊検査で住宅の見えない部分を科学的手法でチェックするなどの20年ごとの大型ハウストックを実施します。更に、暮らし方サポートとして、ハウスクリーニングなどの生活支援サービスや身体変化の状況に対応した人的サポートサービスなど、ライフステージに対応したメニューを付帯しています。

寿命の短い住宅は、建てては壊すスクラップ&ビルドを助長し、それにより資源の無駄使い、環境破壊という問題を引き起こします。また、世代ごとの住宅投資という問題や、建築される住宅の質や性能といった安全性の問題も懸念されます。さらに、介護や高齢者の孤独死といった社会問題もあり、住宅の質だけではなく暮らし方のサポートが求められています。審査では、住宅を次世代に渡って永く住み続けるために必要なソフト面を商品化した点がこれからの時代に必要とされる新しい視点として評価されました。

JAHBnet・リノベーションデザインプロジェクト(新領域/先駆的、実験的なデザイン活動)

「JAHBnet・リノベーションデザインプロジェクト」は、アキュラホームが主宰する全国580社の工務店ネットワーク「ジャープネット」を活用し、工務店を核とした住まい手、職人との新たな連携により、現行の建築基準法に適合していないなど、資産価値の低いストック住宅の価値を再創造する活動です。リノベーション後も定期的に住宅の価値を診断することで、メンテナンスを的確に行い資産価値を持続させます。

ストックの長期化が望まれる低炭素化時代の中にあって、旧来のリフォームにおいては、ストック価値持続のための手法は考慮されていませんでした。既存住宅そのものが地域の住宅生産組織を活用しながら、新たな低炭素化時代に相応しい機能を有したストックへと転化されることが必要だと考えます。審査では、住宅産業の将来が不察視されるなか、適切な連携体制の構築とリノベーションデザイン活動が、中小零細工務店など住宅産業の今後の方向性を示すものとして評価されました。

<本件について報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 アキュラホーム 広報課 堀越 (090-7843-6574)・川畑 (090-5753-6631)

Email: horikosi@aqura.co.jp Email: tomoya@aqura.co.jp

住所: 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル34F

ホームページ: <http://www.aqura.co.jp>

TEL:03-6302-5010 (直通) FAX:03-5909-5560

グッドデザイン賞(G マーク)について

「グッドデザイン賞」は、1957年に通商産業省によって設立された「グッドデザイン選定制度」を継承し、1998年より財団法人日本産業デザイン振興会の主催事業として運営される、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度です。これまで50年以上にわたり、新しい時代の文化と生活を創造することを目的に「より豊かなライフスタイル」と「良いビジネス」を導く運動として展開され、のべ受賞件数は32,000件以上にものぼり、今日では国内外の多くの企業や団体が参加しています。また「グッドデザイン賞」受賞のシンボルである「G マーク」はすぐれたデザインを示す象徴として広く一般に親しまれています。

アキュラホーム

「日本の住まいを安くする」事をミッションとした木造住宅供給に取り組んでいるビルダー。住宅事業の中で培った経験や技術力を活かして住宅建築合理化システム「アキュラシステム」を開発し、これを駆使することでお客様本位の高品質でありながら坪30万円以下で建築可能な注文住宅を提供し続け、業界をリードしています。また、全国の地域ビルダー・工務店580社によるネットワーク「JAHBnet(ジャーブネット)」(旧アキュラネット)を主宰し、そのスケールメリットを活用して、高品質ながら低価格の住宅の開発と全国展開、さらに保証などの安心の制度を導入しています。特に、2001年に坪21万円からというローコスト住宅「M21」で話題になって以来、高気密高断熱(次世代省エネ)住宅、太陽光発電搭載住宅、オール電化住宅、などを相次いで坪30万円以下で発売し話題を集めました。

こうした全国工務店の活性化につながる活動は、国や官庁、地方公共団体からも注目され、経済産業省における「次世代省エネ住宅普及ビジネスモデル」の参考とされました。2005年10月には自らのIT活用に加え、遅れているといわれる住宅建設業界でのIT活用の普及に顕著な貢献があったということで「経済産業大臣表彰」を受賞しました。また東京都が進める東村山市本町地区プロジェクト(都営住宅跡地を利用した全280戸の定期借地権付分譲)では、「価格引き下げ実証実験」で圧倒的な低価格提案(他提案が2/3に引上げるなか1/2の価格を提案)をもってプロジェクト事業者4社の内1社に選定されました。第一期(50戸)販売の申込みでは、平均申込み倍率8.6倍の中で49倍の最高申込み倍率を記録しました。全7期に渡る販売において、アキュラホームの建物は7期連続の申込み倍率1位を記録しています。

ジャーブネット(JAHBnet)

弊社は1978年の創業以来、高品質で低価格な住宅の供給に取り組み、94年に独自の住宅建設合理化ノウハウを体系化した「アキュラシステム」を開発しました。現在2500社以上の全国の工務店に導入されています。98年に(財)日本住宅・木材技術センターの「木造住宅供給支援システム」に認定され、その仕組みをもって工務店組織「アキュラネット」(現ジャーブネット)を設立。震度7クラスの地震を連続3回被災させた実大耐震実験で強さが実証された、安全・安心の住宅「新生代ハウス」を供給しています。ジャーブネットは全国規模のネットワークによるスケールメリット、地域密着企業ならではのダイレクトサービスを併せ持つネットワークとしてすでに約10年にわたり全国のユーザーに「良質な住宅を適性価格」で提供してきました。ジャーブネットには580社が加盟し、2007年度の木造住宅累計販売棟数は8952棟、フランチャイズチェーン・ボランタリーチェーンの販売棟数ランキングで1位(住宅産業研究所データによる)となり、2008年3月にはジャーブネット販売累計が60,000棟を超えました。

<アキュラホーム会社概要>

社名	株式会社アキュラホーム
代表取締役社長	宮沢俊哉
所在地	東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル34F
電話	03-6302-5001(代)
創業	1978(昭和53)年10月
資本金	9,314万円
従業員数	723名(08年4月1日現在)
事業	建築工事・設計施工・販売、住宅総合研究・開発・コンサルティング
売上高	229億円(08年2月期)
ホームページ	http://www.aqura.co.jp